

血清シスタチンC値と血清クレアチニン値より推算したGFR値の乖離に影響する患者特性

Patient characteristics affecting the difference of GFRs estimated from serum cystatin C and creatinine

○荒木 ちなみ¹、北郷 真史¹、石原 慎之¹、玉木 宏樹¹、矢野 貴久¹、直良 浩司¹

○Chinami Araki¹, Masahumi Hongo¹, Noriyuki Ishihara¹, Hiroki Tamaki¹, Takahisa Yano¹, Kohji Naora¹

1. 島大病院薬

1. Dept. Pharmacy Shimane Univ. Hosp.

【目的】腎機能の評価では、血清クレアチニン値（SCr）による推算のクレアチンクリアランスや糸球体濾過量（eGFR_{cre}）、血清シスタチンC値（CysC）による推算のGFR（eGFR_{cys}）が用いられる。しかし、推算式や患者特性の違いにより、推算値が実際の腎機能とは異なることも少なくない。本研究では、SCrおよびCysCより推算したGFR値の乖離に着目し、影響する患者特性を検討した。

【方法】2016年1月～2017年12月に島根大学医学部附属病院においてSCrおよびCysCを測定した18歳以上の患者を対象とした。基本情報や検査値を調査し、尿素窒素/SCr比(B/C比)やeGFRを算出した。eGFR_{cys}/eGFR_{cre}(eGFR比)が0.7未満をLow群、0.7以上1.3以下をNormal群、1.3超をHigh群とし、患者特性の差についてROC解析によりカットオフ値を求めて多変量解析を行った。

【結果・考察】対象は1290名で、Low群254名、Normal群962名、High群74名であった。Low群とNormal群との比較により乖離関連因子(カットオフ値)として年齢(73歳)、血清アルブミン(Alb, 3.8 g/dL)、Body Mass Index(21.28)、尿酸(4.6 mg/dL)、B/C比(27.1)が得られ、多変量解析によりAlb(≤3.8 g/dL)とB/C比(>27.1)が共変量として示された。Low群で共変量のAlbおよびB/C比のいずれか一方を含む割合は88.9%であった。すなわち、Albが3.8 g/dL以下およびB/C比が27.1超の患者では、SCrとCysCによる推算GFR値に乖離を生じる可能性が高いことが考えられた。